

投資、サーキットブレーカー

8日、中国の株式が大暴落しました。ギリシャの債務問題が大きく取り上げられていたので、皆そちらの出来事に集中していたと思います。不意にパンチを喰らった感じです。日経平均も600円超下げ、その後、ダウ平均が取引停止となったり、翌朝の日経平均も最終的には戻りましたが一時、600円超の下落となりました。何かすごい不気味さを感じてはおりますが、10日の時点では少し落ち着きを取り戻している感もあります。ギリシャ問題はどこにいったのかという感じです。私は、日経平均やダウ平均は毎日見ますが、その他の市場はあまり気に留めていなかったのが驚きを感じずにはられません。

(C)http://www.rizumu.net/



それにしても中国には驚かされます。上場企業の半数が取引停止になっていることなど全く知りませんでした。また、8日には、持ち株が5%以上の株主を対象に向こう6カ月間、株式売却を禁止する措置を発表しました。日本では考えられない事ですし、市場の原理を無視

した処置であります。現状売りたいくても売れない株主の気持ちを考えると恐ろしくなってきます。

ただ、日本でもブラックマンデー、アメリカ同時多発テロ、リーマンショック、東日本大震災の時にサーキットブレーカー(先物取引において先物価格が一定以上の変動を起こした場合に、相場の安定化のために発動する措置のことである)が発動されました。上記チャートは東日本大震災の時のものであるのですが、恐ろしい光景です。もっとも、株取引を行っていない人や興味がない人にとっては何てことないとは思いますが。

世の中、FXや株の信用取引で10万円が1億円になった等の本が多数出ておりますが、サーキットブレーカーのような出来事が発生すると、逆に賭けていた場合には一瞬にして有り金を失い逆に莫大な損失が発生します。実際ほんとうに勝ち続けている投資家は、ほんの一握りであり、とてもリスクが高い取引です。不動産投資も基本的には、少ない元手(自己資金)で借りに頼る投資になりますので、同じようなことが言えるかもしれません。また、REIT(不動産投資信託)は別ですが、個別の不動産は、東京証券取引場のような市場があるわけではありませので、売りたい時に売れないリスクは少し高いのかなと思います。著名な投資家ウォーレンバフェットの言葉ですが、自分が理解していないものは、買うべきではありません。

塩田了丈